



ROCK PAINT

省エネルギー対策 外壁用遮熱塗料

シャネリロック外壁用

低汚染弱溶剤二液型NADアクリルシリコン樹脂塗料

遮熱性と高耐久性の『W効果』により、
省エネと節電に貢献!!



ロックペイント 株式会社

シャネツロック外壁用

屋根用のシャネツロック弱溶剤型NEWを応用した
シャネツロック外壁用が誕生!!

太陽光の近赤外線領域を効率よく反射するシャネツロック弱溶剤型
NEWの遮熱性に、外壁塗膜性能を追求したハイブリッド架橋型の
アクリルシリコン樹脂を採用。

その強靭すぐれた塗膜は、長期耐久性と低汚染性を発揮!!

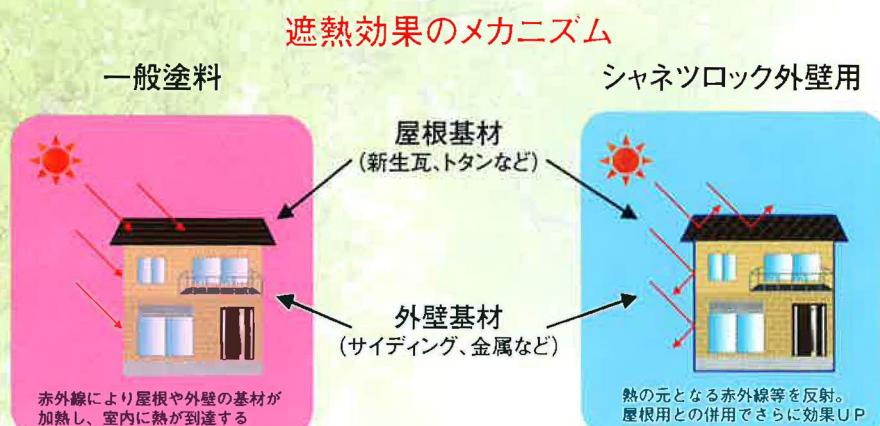
『遮熱性+高耐久性のW効果』によって、快適な居住空間を実現!!

戸建住宅をはじめ店舗、集合住宅、工場などの大型構造物壁面に
幅広く使用でき、省エネルギーにも貢献します。

シャネツロック外壁用のすぐれた特長

遮熱性

太陽から放射される近赤外線領域を効率的に反射し、塗膜表面温度の上昇を抑制、室内温度の上昇を緩和します。



遮熱と高耐久性のW効果

環境・省エネルギー効果

鉛・クロムなどの有害な重金属を原料に使用せず、またトルエン・キシレン含有量が少ない弱溶剤タイプの環境配慮型塗料です。また赤外線の反射効果にすぐれるので、冷房費などの節減が期待でき、省エネルギー・環境低負荷にも貢献します。

シャネツロック外壁用の遮熱効果により使用電力が低減！



表面温度差は外壁面で最大6°C、屋根面は最大13°Cの温度差が認められました。

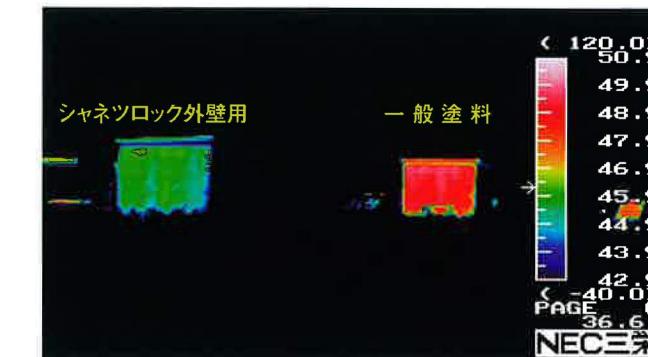
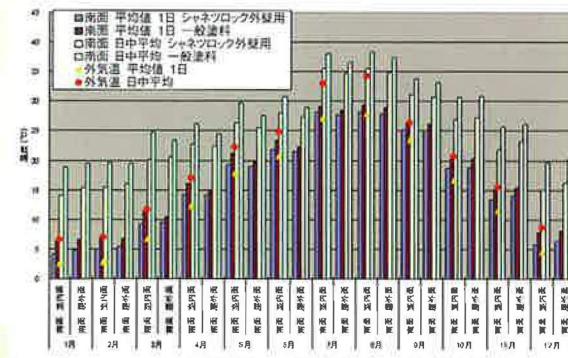
*当社事業所内にて測定

シャネツロック外壁用実証実験

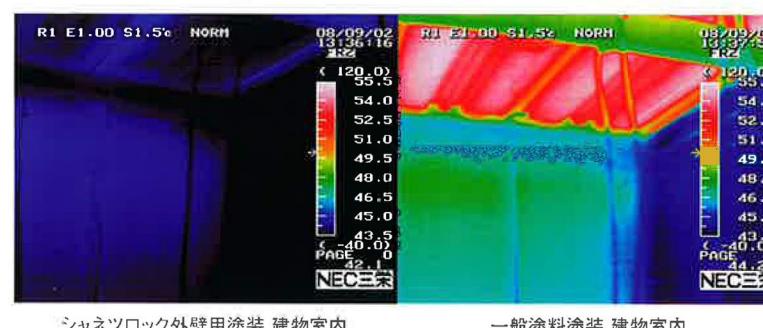
実物大建物による遮熱効果実験



シャネツロック外壁用室内温度測定結果



シャネツロック外壁用室内温度サーモグラフィ

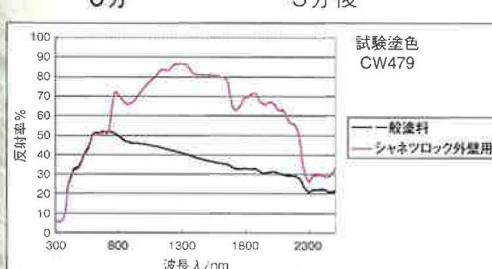
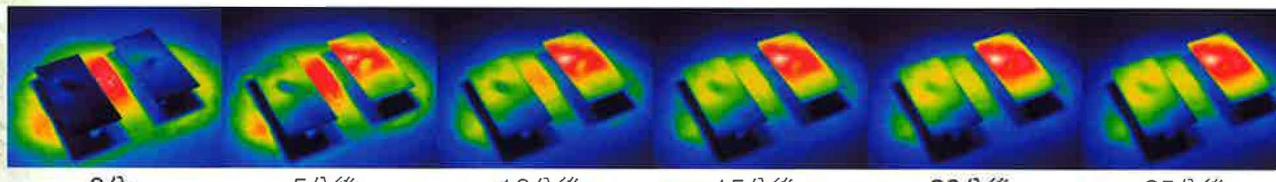
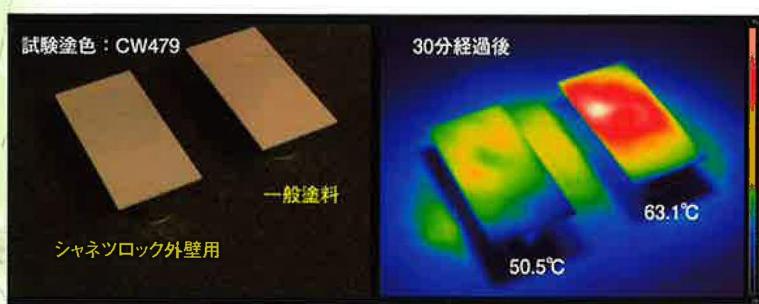


一般塗料塗装 建物室内

シャネツロック外壁用と一般塗料との遮熱効果の違いを検証するために、実物大の建物に塗装し、赤外線サーモグラフィーを用いて検証した結果、外部表面温度と室内表面温度ともに効果があったことが認められました。

窯業系サイディングボード面の遮熱効果実験

窯業系サイディングボード面にシャネツロック外壁用と同色の一般塗料を塗装。遮熱効果の実証実験を行いました。赤外線サーモグラフィによる表面温度変化では、シャネツロック外壁用の塗装板は表面温度上昇を抑制しており、ひいては室内温度の上昇を緩和します。



*上記に記載された遮熱効果、塗膜性能を表した図やグラフ、数値等は特定の試験の場合における実測値または計算値であり、その効果、性能を保証するものではありません。

提案色



↑ CW56 (5.6GY8.5/0.2)



↑ CW359 (1.6GY8.3/0.9)



↑ CW109 (4.7Y8.4/1.3)



↑ CW57 (5.5G7.9/0.2)



↑ CW492 (2.4Y7.9/2.4)



↑ CW332 (1.6Y7.5/1.6)



↑ CW226 (3.7Y7.9/0.5)



↑ CW506 (3.1Y7.8/3.0)



↑ CW479 (8.6YR7.0/2.7)



↑ CW326 (4.8Y6.9/0.8)



↑ CW486 (2.7Y7.1/2.2)



↑ CW305 (8.2YR6.8/1.4)



↑ CW248 (8.8BG6.6/0.3)



↑ CW333 (2.5Y6.9/1.7)



↑ CW307 (7.9YR6.0/1.8)



↑ CW249 (1.6B5.8/0.3)



↑ CW455 (8.2YR4.7/2.5)



↑ CW644 (8.1R4.5/2.3)



↑ CW295 (5.2YR3.6/1.3)

使用上の注意

- ① 使用する前に塗料を底から十分にかき混ぜて、全体を均一な状態にしてください。
- ② 硬化剤は必ず専用硬化剤を使用してください。他の硬化剤を使用すると仕上がり外観、塗膜性能に悪影響を及ぼします。特に弾性用硬化剤との配合比(重量)は、主剤：硬化剤=7.5：1で異なりますので注意してください。
- ③ 希釈には基本的にO16-0059塗料用シンナーを使用してください。他種のシンナーを使用すると塗料中の樹脂が壊されてしまうことがあります。また必要以上に希釈するとタレや色分かれの原因になります。冬季に指触乾燥が遅い場合、O16-0095エナメルシンナーを使用することもできます。
- ④ 2回塗りまたはタッチャップは、1回塗りの後、1週間以内に行ってください。1週間を過ぎるとシリコンの反応が進行し付着不良となるおそれがあります。また、降雨などの影響により、塗り重ね可能時間が短くなることがあります。手直しなどでやむを得ず1週間以上後に塗り重ねする場合は、表面荒らしなど必要な処置を実施してください。
- ⑤ 夏場(気温、被塗物温度を含む)の高温下では、硬化反応が著しく速まるため、上塗りの塗り重ね間隔を3日以内に行ってください。

